

アメリカにおけるキャリア教育の アウトカム評価指標の特徴 —ノースダコタ州のCRPルーブリックを事例として—

石嶺 ちづる¹⁾

1) 高知大学教育学部

The Characteristics of Career-ready Competencies Indicators in the United State; A Case Study on North Dakota Career Ready Practices Rubric

ISHIMINE Chizuru¹⁾,

1) Kochi University Faculty of Education

要約

本稿では、アメリカにおけるキャリア教育のアウトカム評価の特徴を、ノースダコタ州のCRPルーブリック(Career Ready Practices Rubric)を事例として明らかにした。特に任意導入(voluntary)の指標であるにも関わらず、当該ルーブリックの導入が州内で積極的に検討され、全米的にも注目を集めている要因を検討した。

具体的には、次の3つの特徴が、CRPルーブリックが注目される要因である。第一に当該ルーブリックがハイスクール教育の質保障システムの中に位置付けられていることである。第二に、子ども達の資質・能力を見取るために、全米的な指標で示された12の資質・能力ごとに州が具体的なコンピテンシーと行動評価指標が設定されていることである。第三に、評点3(期待通り)を基準に、「期待以上」(評点4)、「努力を要する」(評点2)、「支援が必要」(評点1)の4段階の行動評価指標が設定されていることである。

キーワード：キャリア教育、アウトカム評価、ルーブリック、アメリカ

1. 目的

本稿では、アメリカ合衆国(以下：アメリカ)におけるキャリア教育のアウトカム評価指標の特徴を、全米的に注目を集めているノースダコタ州職業教育省(North Dakota State Department of Career and Technical Education)¹が開発したルーブリック²、Career Ready Practices Rubric(以下：CRP ルーブリック)を事例として明らかにする。同州では、職業教育改革を牽引する全米的な機関である全米州職業教育長官連盟(NASDCTEc、現在は Advance CTE)が示した、働くために必要な資質・能力 Career Ready Practices(以下：CRP)を基に CRP ルーブリックが作成された。

当該ルーブリックは、後期中等教育(ハイスクール)における職業教育科目の評価を中心とした働くための資質・能力の認定(North Dakota Career Ready Seal)のために作成されたものである。現在、職業教育科目に限らず、アカデミックな科目でも導入がなされており、後期中等教育だけでなく初等教育(エレメンタリースクール)で導入された事例もある。本稿では、各学校における導入は強制的なものではない(任意：voluntary)にもかかわらず、CRP ルーブリック導入が積極的に検討され、全米的にも注目を集める要因を考察する。

これらを通して、近年の日本のキャリア教育における評価の動向、すなわちアウトプット評価からアウトカム評価への転換におけるルーブリックを用いた評価の導入に関する示唆を得る一階梯とする。

2. 方法

本稿では、まず CRP ルーブリックが依拠する CRP の特徴について、全米州職業教育長官連盟が発行する資料を基に、CRP 開発の背景とその概要を中心に明らかにする。その際、同機関で当該指標の開発に関わったエグゼクティブ・ディレクター Green, K. に対するインタビュー調査(2016年9月実施)の結果も用いる。

その上で、ノースダコタ州職業教育省が発行する CRP に関する資料を分析の対象として、当該ルーブリックの特徴を、(1)ルーブリックの開発と働くための資質・能力の認定(North Dakota Career Ready Seal)、(2)ルーブリックの構造、(3)評点(score)に示された具体的な行動評価指標の特徴の3点を中心に検討する。その際、同州職業教育省で実施した担当官 Netzloff, M. に対するインタビュー調査(2018年6月実施)の結果も用いる。

これらを踏まえて、各学校における導入は強制的なものではない(任意：voluntary)であるにもかかわらず、CRP ルーブリックの導入が積極的に検討され、全米的にも注目を集める要因を考察する。

3. 結果

(1) アメリカにおけるキャリア教育のアウトカム評価指標 CRP の特徴

1) CRP 開発の背景

全米州職業教育長官連盟が2012年に公表した CRP は、同機関が策定する職業技能スタンダード Common Career Technical Core(以下：CCTC)の一部である。CCTC はキャリア・クラスターズ(Career Clusters)³と呼ばれる職業教育カリキュラム開発のための指針における職業技能スタンダードで、基礎学力を土台として、その上に、CRP(第一層)、産業分野で共通して求められる知識・スキル(Cluster Foundation Performance Element、第二層)、職業分野ごとに求められる知識・スキル(Pathway Performance Element、第三層)の三層で構成される。CCTC の上に具体的な職業技能スタンダードが位置付けられている(石嶺 2017)⁴。CCTC では第二層までが基礎的な資質・能力であり、その上に具体的な能力が積み上げられていくことが想定されている⁵。CCTC に示された能力等

は後期中等教育から中等後教育で獲得するものとされている。

CCTC の策定によって CRP が設定されたこと⁶は、当該スタンダードの特徴である大綱化を端的に示している。スタンダードの大綱化により、CCTC は職業教育履修者のみならず、大学進学を希望する者を含む全ての若者を対象とするスタンダードとなることが志向された。その背景には、次のようなアメリカの雇用情勢が指摘できる。すなわち、労働市場のニーズの変化に対応して転職を繰り返す同国では、初職と同じ職業で働き続けることが稀で、転職の際に必要な知識・スキルを習得することが必要となる。そのため、CCTC では労働市場に出る前の段階で、将来どのような職に就いても必要となる共通の知識・スキルが基礎に位置付けられている⁷。CCTC の開発を通して、全米州職業教育長官連盟は、進路の限定という職業教育の弊害を克服することを企図したといえる。

CRP は主に学校での学習活動における子ども達の行動変容を把握することを目的とする指標であるが、現場実習や地域での活動にも活用することができるとされている (NADDCTEc 2012)。

2) CRP の特徴

CRP は次の 12 資質・能力で構成されている (表 1)。

表 1 : CRP の資質・能力

<ol style="list-style-type: none"> 1. 責任を持って周りの人の役に立てるような振る舞いができる 2. 様々な知識・スキルを実際の生活の中で適切に用いることができる 3. 生活を営むことにおける健康と経済的安定の重要性を理解している 4. 相手にわかりやすく伝わるよう理由をきちんと述べるなど効果的なコミュニケーションをとることができる 5. 決断を下すことによって生じる身の回りの環境や社会・経済に与える影響について考えられる 6. 新しいことを考えたり、今あるものを変えたりすることができる 7. 何かを調べるときに、適切で信頼性のある方法を考えることができる 8. 様々な物の見方を通して問題を理解したり、辛抱強く解決に取り組んだりすることができる 9. 誠実さや倫理を重んじ、自分を律することができる 10. 自分の夢に向かって進路を決定することができる 11. パフォーマンスを上げられるようにテクノロジーを使うことができる 12. 文化の違いを越えてチームのメンバーと協力することができる

NADDCTEc (2013) を基に筆者が作成

3 と 5 以外の資質・能力は全ての教科・科目を通して身につけることができるとされている。なお、3 は職業教育、算数・数学、政治・経済、保健体育で、5 は職業教育と理科で特に身につけることができるとされている。

これらの資質・能力は上記のリード文に加えて、より詳細な解説文が示されており、全て「社会に出る準備が出てきている人 (Career-ready individuals) は・・・」という書き出しで始まる表現で指標化されている。例えば、「2. 様々な知識・スキルを実際の生活の中で適切に用いることができる」の解説文は表 2 のようになっている。以上のように CRP は「社会に出る準備ができていない人」の行動や態度・マインドを具体的に示す指標となっている。

(2) ノースダコタ州における CRP ルーブリックの開発とキャリアレディ認証

CRP ルーブリックは、2015年にノースダコタ州職業教育省が開発したキャリア教育のアウトカム評価指標である。当時、同州では、キャリア教育を通して育成する子ども達の資質・能力をノースダコタ・キャリアレディ認証(North Dakota Career Ready Seal、以下：キャリアレディ認証)として認定することが構想されていた。その際に子どもたちのハイスクール終了時点での資質・能力を教員が評価するための評価指標の設定が課題となっており、全米州職業教育長官連盟など州外の機関が既に公開していた評価指標を参照して指標を策定する作業が進められた。最も幅広く資質・能力を網羅している全米州職業教育長官連盟のCRPでも、それぞれの資質・能力を獲得した姿(目標)は明確であるが、到達度までは測れないと同州職業教育省は認識し、CRPに基づく独自のルーブリックを開発する取り組みが実施された。

CRP ルーブリックを用いてキャリアレディ認証を行うためには、2つの段階がある(Dakota State Department of Career and Technical Education 2018)。第一段階は学期ないし学年ごとに行われる科目の成績評価時の評価である。この際には、少なくとも12項目中8項目以上の資質・能力について評価を行う。その際、「1. 責任を持って周りの人の役に立てるような振る舞いができる」、「2. 様々な知識・スキルを実際の生活の中で適切に用いることができる」、「4. 相手にわかりやすく伝わるよう理由をきちんと述べるなど効果的なコミュニケーションをとることができる」、「8. 様々な物の見方を通して問題を理解したり、辛抱強く解決に取り組んだりすることができる」の4つの資質・能力の評価は必ず実施することとなっている。一方で、各資質・能力の全てのコンピテンシーを評価する必要はない。8項目以上の資質・能力の評価の平均値が当該科目のキャリアレディ認証の値となる。

第二段階は卒業時点での認証である。ここでは第一段階で評価された個々の科目のキャリアレディ認証値の平均値が算出される。その際、各教科の最終科目あるいは最も認証値が高い科目が平均値の算出に用いられる⁸⁾。第二段階で算出される平均値が2.80以上であれば、生徒にキャリアレディ認証が付与され、ハイスクールの成績証明書にも「キャリアレディ認証取得」と示される。

2017年からノースダコタ州では初等中等教育(特にハイスクール教育)の質保障政策の一環として、ノースダコタ・チョイス・レディ(North Dakota Choice Ready)を導入している⁹⁾。当該制度では、全ての生徒にエッセンシャルスキル(進路に関わらず全ての生徒に必要な資質・能力¹⁰⁾を獲得させ、その上で卒業後の進路として中等後教育(Post-Secondary Ready)・就業(Workforce Ready)・従軍(Military Ready)のいずれかを選択し、ガイドラインに沿って卒業に必要な単位等を取らせる。その中で、CRPのスコアが3.0以上であることは、就業を卒業後の進路として選択した生徒が達成する目標の1つ¹¹⁾となっている。

(3) CRP ルーブリックの構造

CRP ルーブリックでは、CRPで示された12の資質・能力の特徴付けるコンピテンシー(individual competency)を12~6項目設定している。コンピテンシーのそれぞれに「4: 期待以上」、「3: 期待通り」、「2: 努力を要する」、「1: 支援が必要」の4段階評価ができるような子ども達の行動評価指標が設定されている。CRP ルーブリックでは、CRPの資質・能力(リード文)(要素①)と詳細な説明(説明文)(要素②)およびコンピテンシー(要素③)と各段階(4~1)の行動評価指標(要素④)、コンピテンシーを端的に表現するキーワード(要素⑤、以下：キーワード)の5つの要素が表形式で一覧できるようになっている。次頁の表2にCRP ルーブリックの抄訳として「2. 様々な知識・スキルを実際の生活の中で適切に用いることができる」の内容を示す。

表 2 : CRP ルーブリック (抄訳)

CRP						得点
2. 様々な知識・スキルを実際の生活の中で適切に用いることができる						
<p>社会に出る準備ができていない人は、より生産的に物事に取り組めるように、経験や教育を通して知識やスキルを身に付け活用することができる。社会に出る準備ができていない人は、抽象的な概念を実社会の出来事と結びつけることができ、学校等で学んだ知識やスキルを職場で活用する際にどのように活用すればよいか適切な判断ができる。</p>						
コンピテンシー	4 (期待以上)	3 (期待通り)	2 (努力を要する)	1 (支援が必要)	キーワード	
<p>仕事の中で数学的根拠を活用しながら、数学的スキルを発揮することができる。</p>	<p>仕事をする上で必要な計算などを行う時に幾何や代数の知識を用いるなど、業務のなかで数学的推論や処理を自分一人で実行することができる。</p>	<p>仕事をする上で必要な計算などを行う時に幾何や代数の知識を用いるなど、業務のなかで数学的推論や処理を必要に応じてサポートを受けながら、確実に実行することができる。</p>	<p>仕事をする上で必要な計算などを行う時に幾何や代数の知識を用いるなど、業務のなかで数学的推論や処理を実行するが、時々間違ふことがある。</p>	<p>仕事をする上で必要な計算などを行う時に幾何や代数の知識を用いるなど、業務のなかで数学的推論や処理を行う方法がわからない。</p>	数学的知識	
<p>新たらしいアイデアを出す時や自発性を持って働く際に、豊富な知識を活用することができる。</p>	<p>知識や信頼できる情報源、より効率のよい方法を用いながら新しいアイデアを出したり、考えを改善することができる。</p>	<p>知識や信頼できる情報源、より効率のよい方法を用いながら新しいアイデアを出したり、考えを改善することができることもある。</p>	<p>内容によっては、知識や信頼できる情報源、より効率のよい方法を用いながら新しいアイデアを出したり、考えを改善することができる。</p>	<p>知識や信頼できる情報源、より効率のよい方法を用いながら新しいアイデアを出したり、考えを改善することはほとんどない。</p>	知識の活用	
<p>仕事に関連する資料の内容を理解しながら正確に読むことができる。</p>	<p>仕事に関する書類を正確に読み、解釈し、活用することができる。</p>	<p>仕事に関する書類を正確に読み、解釈し、活用することができる。</p>	<p>仕事に関する書類を正確に読み、解釈し、活用することもできる。</p>	<p>仕事に関する書類を正確に読み、解釈し、活用することがほとんどできない。</p>	読解と解釈	
<p>仕事に関連する資料の内容を理解してわかりやすい文章を作成する際に、正確に書くことができる。</p>	<p>常に、読み手のことを意識し、適切な言葉遣いでわかりやすい文章を書くことができる。</p>	<p>わかりやすい文章を書くことができる。読み手のことを意識して、適切な言葉遣いで書くことができる時もある。</p>	<p>わかりやすい文章で書くことはでき、読み手のことを意識することはできるが、言葉遣いが適切でない。</p>	<p>文章がわかりにくく、言葉遣いが適切ではない。読み手を意識していない。</p>	文章作成	
<p>仕事に取り組む中で生じる問題を分析したり、切り分けたりする際に、論理的思考や問題解決能力を発揮することができる。</p>	<p>問題となっている状況の解決に役立つリソースを容易に迅速に明確化することができる。そのリソースを有効に活用する方法を多面的に考えることができる。</p>	<p>問題となっている状況の解決に役立つリソースを明確化することができる。そのリソースを有効に活用する方法を多面的に考えることができる。</p>	<p>問題となっている状況の解決に役立つリソースを明確化することができる。そのリソースを有効に活用する方法を多面的に考えることはできない。</p>	<p>問題となっている状況の解決に役立つリソースを明確化することも、そのリソースを有効に活用する方法を多面的に考えることもできない。</p>	問題解決能力と批判的思考力	
<p>仕事を効率的・生産的に行うために機器を選んだり、用いたりする際に、それぞれの仕事に固有のテクノロジーを有効に活用することができる。</p>	<p>仕事を効率的にこなす、生産性を高めるために、常に機器等のテクノロジーを適切に選択し、活用することができる。</p>	<p>仕事を効率的にこなす、生産性を高めるために、機器等のテクノロジーを適切に選択し、活用することができる。</p>	<p>仕事をこなすために、機器等のテクノロジーを適切に選択し、活用することができる。</p>	<p>仕事をこなすために、機器等のテクノロジーを適切に選択し、活用することがほとんどできない。</p>	職務を完了するための資源の活用	

North Dakota State Department of Career and Technical Education (2015) を基に作成

また、CRP ルーブリックでは表 2 に抄訳を示した全体版ルーブリック (Main Rubric) に加えて、CRP の資質・能力(リード文)(要素①)をキーワード化し¹²、要素⑤のキーワードが資質・能力ごとに一覧できる簡易版ルーブリック (Short Rubric) が作成されている¹³。

(4) CRP ルーブリックの特徴：評点に示された具体的な行動の評価基準の特徴

CRP ルーブリックでは、評点 3 (期待通り) に示される行動にすべての子どもが到達することを目標に教育活動を行うことが想定されている。評点 3 (期待通り) を基準にそれぞれの評点について具体的な行動評価指標が示されている (North Dakota State Department of Career and Technical Education 2018)。ルーブリック全体を通して、各評点は次のような到達度の行動が示されることとなっている。すなわち、評点 4 (期待以上) は、「働くために必要な資質・能力以上のものを身につけている」状態である。評点 3 (期待通り) は、「働くために必要な資質・能力を身につけている」状態である。評点 2 (努力を要する) は、「働くために必要な資質・能力を身につけているが、改善が必要」な状態である。評点 1 (支援が必要) は、「働くために必要な資質・能力を身につけるために、追加的な学習や支援が必要」な状況を示している。

実際の CRP ルーブリックに示された各段階 (4~1) の行動評価指標 (要素③) を検討すると、次のような特徴がみられた。表 2 に示した「2. 様々な知識・スキルを実際の生活の中で適切に用いることができる」のコンピテンシー「仕事に関連する資料の内容を理解しながら正確に読むことができる」の各段階 (4~1) の行動評価指標 (要素③) を評点 3 の行動評価指標を軸として他の行動評価指標を比較すると次のようになる。評点 3 では、「仕事に関する書類を正確に読み、解釈し、活用することができる」となっている。一方で評点 4 の行動評価指標は、「仕事に関する書類を正確に読み、解釈し、活用することが容易に(傍点は引用者)できる」となっている。このように評点 4 の行動評価指標は評点 3 の行動評価指標に「容易に」という条件が加わり、評点 3 以上、すなわち「期待以上」の行動ということになる。

評点 2 の行動評価指標は、「仕事に関する書類を正確に読み、解釈し、活用することできることもある」であり、評点 3 では達成できる行動として設定されている「仕事に関する書類を正確に読み、解釈し、活用する」ことが「できることもある」(できないこともある)という行動にむらがある状態だと理解できる。このことから、評点 2 の評価を受けた子どもは評点 3 の状態に近づくように「努力が必要」な状態であるといえる。

評点 1 の行動評価指標は「仕事に関する書類を正確に読み、解釈し、活用することがほとんどない」となっている。すなわち、評点 1 は評点 3 の行動が取れない状態である。

4. 考察及び今後の課題

本稿における検討から、任意採用 (voluntary) であるにも関わらず、ノースダコタ州内の多様な教育段階の学校で CRP ルーブリックの導入ないし導入の検討がなされ、全米的にも注目を集めている要因は、次の 3 つにあると考えられる。

第一に教育の質保障システムという教育改革全体の取り組みの中に位置づけられたことである。3. の (2) の検討から、CRP ルーブリックがキャリアレディ認証のために作成され、近年では初等中等教育の質保障政策の一環であるノースダコタ・チョイス・レディに取り入れられていることが明らかにできた。このことから、州職業教育省が任意採用の評価指標として開発した当該ルーブリックが、教育改革全体というより大きな枠組みの中に取り入れられたことで、CRP の導入に関する関心が高まったと考えられる。

第二に、具体的なコンピテンシーと行動評価指標の設定である。3. の (3) の検討から、CRP ルー

ブリックは次の2つの特徴を持つことが明らかにできた。第一に、全米州職業教育長官連盟のCRPで示された12の資質・能力のそれぞれについて、各資質・能力を特徴付けるコンピテンシー(要素③)を12～6項目設定していることである。第二に、各コンピテンシーを4段階で評価する行動評価指標(要素④)を設定していることである。これらの特徴から、CRPの12の資質・能力をさらに具体化したコンピテンシーを設定し、各コンピテンシーについて4段階で評価できる行動評価指標が設定されていることで、子ども達の働くための資質・能力の発達を容易に見取ることができる構造になっている。

第三に行動の評価基準が明確に設定されていることである。3.の(4)の検討から、CRP ルーブリックの評点に示された具体的な行動の評価基準の特徴は次のように考察できる。すなわち、評点3(期待通り)を基準に、基準以上(評点4:期待以上)と基準以下(評点2:努力を要する、評点1:支援が必要)が設定されている。基準以下の評価である評点1と評点2との違いは次の点にあると言える。すなわち、評点2は評点3に設定された行動が取れる場合もある状態のため、本人の努力によって評点3に到達することが期待できる。一方で評点1は評点3に設定された行動が全く取れない状態である。そのため、評点1の評価を受けた子どもが目標とする行動(評点3)が取れるようになるためには、教員等による「支援が必要」である。このように評価基準の違いを明確にすることで、ルーブリックに基づく評価をカリキュラムや指導の改善に活かすことができると考えられる。

本稿ではCRP ルーブリックの運用実態は明らかにすることができなかった。州職業教育省で実施した担当官 Netzloff に対するインタビュー調査(2018年6月)から、教員の負担の軽減がCRP ルーブリックの普及における課題であることが明らかになっている。すなわち、当該ルーブリックの必要性は理解されているものの、ルーブリックを活用した評価を実施する時間がないと捉えている教員が多いということである。このような状況を踏まえて、州職業教育省はルーブリック導入のための補助金制度をしている。また、ビズマーク学区におけるオンライン評価システムの導入など、学区による支援も実施されている。

また、ノースダコタ・チョイス・レディで就業を卒業後の進路として選択する生徒が達成したCRP3.0以上の実質的な評価を検討する必要がある。ノースダコタ・チョイス・レディでは、働く準備ができている生徒であると認定する指標の一つにCRP3.0以上が位置付けられている。この評価のガイダンスカウンセラーとの面談や雇用主の評価といった具体的な進路選択の場面における意味、すなわち、CRP3.0以上であることが働くための資質・能力を十分に備えていることを実質的に証明し、就職に資する資質・能力の評価システムになっているか否かの検討が必要である。

稿を改めこれらを解明し、日本におけるキャリア教育のアウトカム評価指標開発に更なる示唆を得ることを今後の課題とする。

謝辞

本研究はJSPS 科研費16H03791の助成を受けた。

文献

- 1 NASDCTEc(2012b): *The Career Ready Practices of the Common Career Technical Core.*
- 2 NASDCTEc (2013) : *Introduction to The Common Career Technical Core.*
- 3 Netzloff, M. (2016): *Recommendations for Career Ready Practice Rubric Usage/Scoring North Dakota Career and Technical Education*
- 4 North Dakota State Department of Career and Technical Education(2017a): *CRP*

Main Rubric.

- 5 North Dakota Career and Technical Education(2017b):*Short Rubric*
- 6 North Dakota State Department of Career and Technical Education(2018) : *Career Ready Seal Guidelines.*
- 7 North Dakota State Department of Public Instruction: *North Dakota Choice Ready Guidance*(<https://www.nd.gov/dpi/sites/www/files/documents/Division%20of%20SS%26I/ESSA/Choice%20Ready/North%20Dakota%20Choice%20Ready%20Guidance.pdf> 閲覧日：2019.11.30)
- 8 North Dakota State Department of Public Instruction (2019): *North Dakota Choice Ready.* (<https://www.nd.gov/dpi/choice-ready> 閲覧日：2019.11.29)
- 9 石嶺ちづる(2017)：スタンダードに基づく教育改革における専門的職業人養成の動向—アメリカにおける就学前教育分野の職業技能スタンダードを中心に—. 国際学院埼玉短期大学研究紀要, 第 38 号, 13-19.

- ¹ 州職業教育省(State Department of Career and Technical Education)とは、教育に関する州施策のうち職業教育に関するものを扱う機関である。ノースダコタ州以外にオクラホマ州に置かれている。
- ² ルーブリックとは、評価項目ごとに到達レベルを示す数値尺度とそれぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語(評価基準)からなる評価基準表である。
- ³ 16の産業分野からなるキャリア・クラスター(Career Cluster)と、キャリア・クラスターを細分化した職業群キャリア・パスウェイ(Career Pathway)で構成される。
- ⁴ 看護師を例にすると、基礎学力を土台として基礎的・汎用的能力が位置付けられ、その上で医療・福祉分野の産業分野に共通する知識・スキルが重なり、その上に医療分野の職業群(医師、看護師、薬剤師、理学療法士など)に共通する知識・スキルが重なる。最上位に看護師に必要な資格が位置付けられるという構造である。
- ⁵ CCTCの具体的な構造については、石嶺(2017)を参照されたい。
- ⁶ 2008年に設定された旧スタンダードでは産業別に基礎・汎用的能力が設定されていた。
- ⁷ 第二層・第三層のスタンダードも旧スタンダードより汎用性が高い内容となっている。旧スタンダードでは業界団体が示す個別のスタンダードを参照することとどまっていたが、CCTCでは産業分野・職業群ごとの共通性・汎用性を高める工夫がなされている。
- ⁸ キャリアレディ認証では「認証値の低い科目は生徒のキャリアディネスの形成に大きな影響を与えていない」と捉えられている(North Dakota State Department of Career and Technical Education 2018:3)。
- ⁹ 当該制度は2015年に改正された連邦初等中等教育法(通称：「全ての子どもが成功する法、Every Student Succeeds Act: ESSA」)に伴って導入されたハイスクールの質保障施策である。(North Dakota State Department of Public Instruction)。
- ¹⁰ キャリアガイダンス・カウンセリング、金融リテラシーの育成、市民性の育成の他、サービスマスターリングへの参加や、職場体験学習、出席率95%以上、2年以上の正課外活動への参加、課題研究などから4つを達成することが求められる(North Dakota State Department of Public Instruction 2019)。
- ¹¹ ノースダコタ・チョイス・レディでは就業を卒業後の進路とする生徒(Workforce Ready)は、全ての進路に共通する進路選択のための活動(Four Year Rolling Plan)に加えて、3科目以上の職業教育科目の単位取得、CRP3.0以上の獲得、中等後教育機関との20単位取得コースの履修、Work Keys(就業能力認定)のゴールド/シルバーの取得、75時間以上の実践的現場実習、大学進学英語・数学のオンラインコースの修了などのうち2つ以上を達成することが目標となっている(ibid.)。
- ¹² 例えば、「2.様々な知識・スキルを実際の生活の中で適切に用いることができる」は、「働くために必要な基礎学力」とキーワード化されている(North Dakota Career and Technical Education 2017b)。
- ¹³ 簡易版ルーブリックは、パイロットプロジェクトで明らかになった「全体版は分量が多いため使いづらい」という課題を解決する方策として作成された(2018年6月のノースダコタ州職業教育省でのインタビュー調査に基づく)。